

久場睦夫,宮城 茂,名城一臣  
本馬恭子,仲宗根恵俊  
大城盛夫  
同 外科 石川清司,国吉真行  
久田友治,久高 学,太田守雄  
源河圭一郎  
琉球大第2病理 岩政輝男

34歳の女性。咳と喘鳴あり。  
胸写上,右肺門上部近傍に径約  
20mm大の異常影を認め,気管  
支鏡検査にて右上幹に表面軽度  
不整な黄白色の腫瘍を認めた。  
生検組織像で mucoepidermoid  
carcinoma が疑われ,右上葉ス  
リーブ切除術を施行。腫瘍は大き  
さ18×15mmで右B<sup>2</sup>とB<sup>3</sup>間の  
spurから発生し気管支内腔  
へ polypoid に発育していた。組  
織診断は mucoepidermoid car-  
cinoma で,腫瘍は気管支壁深部に  
浸潤しているが肺実質へは及  
んでいなかった。

#### 79. 肋骨原発の pseudo-angio- sarcoma の1例

長崎県立島原温泉病院外科

高山和之,篠崎卓雄,松尾繁年  
山口 聡,松尾光敏

長崎大中央検査室病理

津田暢夫,林徳真吉

症例は24歳女性。15歳時より  
胸部X-Pで異常陰影を指摘さ  
れ経過観察。腫瘍の増大傾向が  
みられた為手術を施行。腫瘍は  
右第4肋骨原発で胸腔内に発育  
していたが,肺浸潤なし。腫瘍  
は10×5×3cm赤褐色で内腔は  
ほとんど充実性で一部嚢胞を呈  
していた。酵素抗体法を含めた  
病理組織学的検査で pseudo-  
angiosarcoma と診断された。

#### 80. 縦隔原発 yolk sac tumor の 1例

佐賀医大内科呼吸器

宮原正晴,黒木茂高,河島通博  
藤沢伸光,中田晴雄,青木洋介  
中原快明,加藤 収,山田穂積

症例は21歳男性。胸痛及び咳  
嗽,呼吸困難を主訴として受診  
した。胸部X線上前縦隔腫瘍及  
び左下肺野の結節影を認め,血  
清のAFPは,8682mg/dlと高値  
を示した。入院後呼吸困難は,  
急速に増強し,救命的及び確定  
診断のため腫瘍摘出術を施行し  
た。術後の病理診断では, yolk  
sac tumor であった。

放射線及び化学療法を施行  
後,肺内転移巣の著明な縮小  
と,AFPの正常化を認め,現在  
生存中である。

#### 印象記

第32回日本肺癌学会九州地方  
会は,熊本大学1外科教授宮内  
好正会長のお世話で,メルパル  
ク熊本において,8月6日挙行  
され,翌7日にはひき続き,第  
51回九州癌学会が行われた。肺  
癌関係は,特別講演として,  
「肺癌画像診断の最近の動向」  
が,河野通雄神戸大教授により  
行われ感銘を与えた。肺癌の一  
般演題は80題に及び,終日熱心  
な討議が行われた。

(大田満夫 記)

## 北海道支部

### □第18回

#### 日本肺癌学会北海道支部会

平成4年9月19日(土)

第一製薬札幌支店講堂

支部長 小松作藏

(札幌医科大学第2外科)

#### 1. 中縦隔内 origin 不明扁平上 皮癌の1例

札幌医大第3内科 森田祐二

山岸雅彦,四十坊典晴

中田尚志,栗原将人,今 勇人

浅川三男

同 第2外科 草島勝之

同 病理部 佐藤昌明

症例は56歳男性。中縦隔内に  
孤立性腫瘍がみられ,切除標本  
の検討でリンパ組織の混在を認  
める扁平上皮癌と診断された。  
原発不明癌病巣からの転移リン  
パ節(T0N2 or 3 症例),あるい  
は微小な迷入上皮に由来するリ  
ンパ節原発癌の可能性が推察さ  
れた。

#### 2. 胸腔鏡下に摘出した臓側胸 膜由来限局性中皮腫の1例

手稲溪仁会病院呼吸器科

野村直弘,白鳥正典

北海道大第2病理 藤岡保範

72歳男性。主訴は感冒様症  
状,全身倦怠感。胸部単純X線  
写真で右中肺野に孤立性腫瘍様  
陰影を認め入院。胸部CTでは  
充実性の胸壁由来の腫瘍を疑い  
超音波下に生検を試みたが確診  
に至らず胸腔鏡検査を施行。右  
下葉S<sup>6</sup>に有茎性の腫瘍を確認し  
胸腔鏡下に隣接する肺の一部と  
ともに切除,摘出した。組織学  
的には臓側胸膜由来の良性的線  
維性中皮腫であり外来で経過観  
察中である。アスベスト曝露の